

平成 30 年度
学生生活実態調査
報告書
(学部・大学院)

平成 31 年 2 月



広島大学

はじめに

大学は、高度な研究を行う第一線の研究者が自らの学術研究をふまえながら授業や演習、研究指導を行うことで、学問的成果や今まさに発展しつつある学問の魅力を伝え、学生自らがその分野で学問の課題を見だし、解決する能力を培わせる場です。また大学には、課外活動にも打ち込める環境を用意し、学生の自主的な成長・育成を後押しする責務があります。これは、生涯にわたってスポーツや文化と向き合う機会を作る場としても重要ですし、それらの過程を通じて、将来どのような場においても、予測不能な課題に対して解決可能な人材を育成する場であるとも言えます。

学生の成長・育成を後押しするためには、絶えず学生の生活実態や現況、多様なニーズを把握して分析・評価し、学生の生活環境や学生支援のあり方を改善する必要があります。広島大学では、学部学生のみを対象とした学生生活実態調査を、1990年度と1993年度、2006年度、2014年度に実態調査を実施しました。現在はすべての学部学生、大学院学生、専攻科生を対象として学生生活実態調査を行っています。

アンケートは、2018年10月15日～11月26日の期間に実施しました。また2018年度は、アンケート回答率を上げるための方策として、前回調査に引き続き各設問を英語でも表記することにし、また、今年度から、SERU(Student Experience of Research University)のアンケートと合同で実施することで回答者へのプレゼントを増やし、回答者の中から抽選で大学院生にはiPadを2名に、生協の電子マネーチャージ券(1,000円分)を72名に贈呈しました。また、学部学生には、TOEIC対策にも使用できるニンテンドーのスイッチを20人に、生協の電子マネーチャージ券(1,000円分)を200名に贈呈しました。この結果、回答率は年々向上し、今年は28.3%(学部27.6%、大学院29.8%)まで上昇しました。前回の回答率は22.4%(学部生22.5%、大学院生22.2%)で、前々回は14.2%でしたので、回答率は毎年向上しております。学生のアンケートの回答によって改善した内容はポスターに記載して学生に周知することにしてあります。

学生生活委員会のもとに学生生活実態調査ワーキング・グループを立ち上げ、アンケート実施期間、アンケート項目、アンケート実施の周知方法及び回答率を上げるための方策を検討しました。アンケートの質問項目については学生生活実態の経年的変化を解析したいため、これまでの質問項目をほぼ踏襲しております。また、学生にとってわかり易い質問となるように、前年度の回答項目の選択肢の文章を工夫いたしました。実施方法はこれまで通り「もみじ」のアンケートシステムにより行い、作成した学生生活実態調査報告書は本学ホームページで公表することにしました。また、自由記述「広島大学に伝えたいこと」につきましては、課題領域、全学・部局等のカテゴリーに整理して、電子データにより各部局にも提供し、有効に利用して戴くことといたしました。

選択式アンケート結果からは、

1) 大学内にいる時間数は、理系で多く、文系で少なくなっており、また時間数は昨年と比べて少し長くなっております。大学内のどこに居るかという質問では、構内のフリースペースや多目的室に居るといった回答が伸びており、学内のフリースペースが増え、それを学生諸君が利用し始めている実態がうかがえました。これは、図書館の開館時間の延長や、各部局でのフリースペースの有効利用が効果をあげていることと考えます。

2) 一ヶ月の生活上の収入に関しては、昨年よりも低い額の収入を得ている学生が増えておりましたが、それでも、家庭からの給付や奨学金よりも、就労やアルバイトで収入を得ている学生諸君が多いことがわかりました。また、支出に関しても昨年より低い支出をしている学生が増えています。これらの事は、社会情勢を反映して、苦学生が多くなっていることが推察されます。

3) 1週間に授業の課題などに要する時間ですが、これには問題があると感じています。つまり、昨年と比べて5時間未満の学生の割合が58.0%から69.3%に増加しています。もちろん、これらの結果は学部によっても異なります。平均よりも自宅での学習時間が長いのは、文学部と理学部、医学部、歯学部、工学部で、それ以外の学部では学習時間の確保が平均よりも短いようです。このことは、授業外学習を充実させるという本学の教育上の観点に反した結果となっております。また、授業とは関係の無い自主的な学習時間についても、5時間未満の学生の割合

が 71.4%から 81.2%に増加してしまっています。学部別では、総合科学部、文学部、医学部が良いようです。苦学生が多く、就労やアルバイトをして、支出も抑えている学生が多くなっている現状ですが、各部局におかれましては授業外学習時間の確保に努めて戴きたく、宜しくお願いいたします。この授業外学習時間の減少については、昨年も同じ内容の事を記載しています。各部局で真摯にこの事を受け止めて戴きたいと思います。

4) 収入が低くなっていることが反映されているのか、または、全学ネット環境が充実していることがよく働いているのかは不明ですが、ネット接続できる PC を持っている学生の数も昨年に比べて 93.4%から 89.7%に若干減少しています。その代わりとしてか、スマートフォンの所持率が 85.2%から 88.4%に増加しました。学生には学内のフリースペースで、PC を用いて授業外時間を確保して戴けたらと思います。

5) SNS の利用率は、1 日に 2 時間以上利用する学生が、昨年の 32.2%に比べて今年度が 34.3%と年々増加しています。現代の学生の状況を反映しているものと推察いたします。

6) この 2019 年 1 月から全学禁煙が始まりますが、学部での非喫煙者の割合は昨年の 96.6%と比べて今年度 95.6%となり、若干の増減少と推察されます。受動喫煙の問題が大きく取り上げられていることから、非喫煙の卒業生を大学として社会に送り出したいものです。

7) 大麻などの薬物に関しては要注意です。昨年度は、「所持または使用している人を見たり、聞いたりしたことがある」という学生は、昨年度の学部で 1.8%、大学院の学生で 2.0%でしたが、今年も学部で 1.6%、大学院生で 2.1%居りました。僅かな数ですが、学生生活支援としてはこの問題を無視できません。積極的に学生諸君にアピールして行きたいと考えておりますが、各部局におかれましても、この問題に注意を払って対策をして戴ければと思います。

8) また、アクセシビリティセンターや、グローバルキャリアセンター、保健管理センターやハラスメント相談室などの学内の施設についての知名度が少ないことも、問題だと考えております。学生が学内で事件や事故、病気、トラブルに遭ったときなど、適切な対応ができますように、各部局やチューターの先生にお願いしたいと思います。また、学生が心理面での悩みが生じたときに相談する場所が、教員や各相談室に行くのでは無く、先輩や家族に相談するという割合が併せて 87.1%もあり、各センター利用をもっと周知させる試みが必要だと感じました。指導教員や学生本人からもっと早く教育室の学生生活支援などに連絡して戴けたら問題が大きくなりず済んだこともありました。大学の中に相談できる教員がいるかという質問項目でも、38.4%と低下しています

本学に伝えたいこと(自由記述)」では、学生諸君から重要な個別意見がたくさんありました。これらの声を無駄にしないよう、できるかぎり学生にフィードバックしていきたいと考えております。

最後になりましたが、今回のアンケートに回答、協力していただきました学生諸君、アンケートの検討、学生生活実態調査報告書のためのデータ分析にご協力戴きました WG 委員の方々、関係事務・教職員の皆様に、心より御礼申し上げます。

本学生生活実態調査が、広島大学の学生生活の改善に、また、学生支援の充実に繋がり、結果的に有能な人財を世に送り出すことに貢献できることを願ってやみません。

平成 31 年 2 月

広島大学副学長 (学生支援担当)

古澤 修一

目 次

I 調査の概要

1 調査期間, 調査対象, 調査方法	1
2 回答者の内訳	1

II 設問と回答分布

【学 部】

1 大学生活において大切にしているもの	3
2 学内のクラブ・サークル活動への参加	3
3 大学の行事への参加	4
4 ボランティアや地域活動への参加	4
5 アルバイト	5
6 大学構内での滞在時間・場所について	6
7 大学構内でくつろいで過ごせる場所	8
8 1ヶ月の生計費(収入・支出)	8
9 1週間の学習時間	12
10 所有もしくは占有している物	13
11 Social Network Serviceの使用状況について	14
12 犯罪やトラブルなどの被害経験	14
13 交通事故の経験	15
14 喫煙及び飲酒の習慣	15
15 薬物(大麻等・覚醒剤)や危険ドラッグ等について	16
16 授業以外の学生生活の充実度	17
17 授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス	17
18 学生生活の悩み	18
19 相談内容と相談窓口	18
20 現在の健康状態	21
21 身体面・心理面の悩みの解消	21
22 友人との関係	22
23 教員との関係	22
24 学生交流スペースの利用	23
25 所属学部の学生支援室の対応	23
26 学生プラザの学生支援部門の対応	24
27 本学の教育・学習, 学生生活などの全体的な満足度	25
28 居住形態	25
29 通学方法	26

【大 学 院】

1	大学生活において大切にしているもの	27
2	学内のクラブ・サークル活動への参加	27
3	大学の行事への参加	28
4	ボランティアや地域活動への参加	28
5	アルバイト	29
6	大学構内での滞在時間・場所について	30
7	大学構内でくつろいで過ごせる場所	32
8	1ヶ月の生計費（収入・支出）	32
9	1週間の学習時間	36
10	所有もしくは占有している物	37
11	Social Network Service の使用状況について	38
12	犯罪やトラブルなどの被害経験	38
13	交通事故の経験	39
14	喫煙及び飲酒の習慣	39
15	薬物（大麻等・覚醒剤）や危険ドラッグ等について	40
16	授業以外の学生生活の充実度	41
17	授業以外の学生生活に対する大学のサポート体制やサービス	41
18	学生生活の悩み	42
19	相談内容と相談窓口	42
20	現在の健康状態	45
21	身体面・心理面の悩みの解消	45
22	友人との関係	46
23	教員との関係	46
24	学生交流スペースの利用	47
25	所属研究科の学生支援室の対応	47
26	学生プラザの学生支援部門の対応	48
27	本学の教育・学習，学生生活などの全体的な満足度	49
28	居住形態	49
29	通学方法	50
Ⅲ	資料 学生生活実態調査アンケート項目（もみじ画面）	51